

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

★ 安全リレー ★



岩手県における安全・適正就業の取組み

岩手県シルバー人材センター連合会の概要（平成30年3月31日現在）

・センター数	31 団体
・会員数	6,867 人（内派遣登録会員 1,180 人）
・受注件数	37,943 件（請負・委任 37,294 件、派遣 649 件）
・契約金額	2,411,854 千円（請負・委任 2,189,912 千円、派遣 221,942 千円）
・就業実人員	5,749 人、派遣 695 人
・就業率	83.7%（請負・委任）、58.9%（派遣）

1. 過年度&30年度4月～9月期の事故発生状況

	27年度	28年度	29年度	29年 (4月～9月)	30年 (4月～9月)
就業延人員(人日)	489,069	491,815	489,342	280,734	275,852
事故発生件数	49	39	43	32	29
事故者 ‰	0.1001	0.0792	0.0878	0.1139	0.1051

(注) 事故者‰（パーミル、千分率）＝事故件数÷就業延人数×1,000

作業の種類（技能群）別事故件数 平成30年度/29年度 同月比較

作業の種類	30年度 (4月～9月)	29年度 (4月～9月)	30年－29年	30年度の事故 割合
自動車運転等	0	1	△1	0
庭木剪定等	6	6	0	20.6
その他の技能	0	0	0	0
建物施設管理	0	0	0	0
駐車場管理等	0	0	0	0
配達・検針等	0	0	0	0
屋内作業	0	0	0	0
屋外作業	4	2	2	13.8
除草・草刈り	16	19	△3	55.1
屋内清掃	1	1	0	3.5
屋外清掃	1	2	△1	3.5
高齢者福祉等	1	1	0	3.5
計	29	32	△3	100.0

平成 30 年度上半期（4 月～9 月）事故件数は 29 件と、29 年度（4 月～9 月）の事故件数 32 件に比較して 3 件の減少となった。

これらの背景には、各センターそれぞれの会員、役職員が一丸となり安全就業に取り組んだ結果が表れている所であり、平成 24 年から 6 年連続死亡・重篤事故が発生していないことにも繋がってきている。引き続き『事故ゼロ』を目標に、啓発活動を続けていきたい。

2. 連合会の安全・適正就業への取組み

(1) 安全・適正就業推進委員会の開催

（構成：岩手県内 14 センターの事務局長）

①第 1 回安全・適正就業推進委員会（平成 30 年 5 月 7 日開催）

- ・平成 29 年度取組報告、事故報告
- ・平成 30 年度安全・適正就業推進計画
- ・安全・適正就業推進パトロールの実施計画

②第 2 回安全・適正就業推進委員会（平成 31 年 3 月 5 日開催予定）

- ・安全・適正就業推進パトロールの実施報告
- ・平成 31 年度安全・適正就業推進計画策定等

(2) 安全・適正就業推進研修会の開催

①平成 30 年度安全・適正就業推進研修会（平成 30 年 7 月 11 日開催）

毎年 7 月を安全強化月間としていることから岩手県内全センターを対象とした、安全就業と適正就業それぞれの観点から、専門の講師をお招きし、安全・適正就業についての共通理解、意識高揚を目的とした研修会を開催。

・講演内容

「シルバー人材センターの業務拡大について」

岩手労働局 職業安定部 職業対策課 高齢者対策担当官

○シルバー人材センターの就業時間を拡大する特例措置（高齢法第 39 条業務拡大）の概要説明

「シルバー世代の交通安全について」

岩手県警察本部 交通部 交通企画課

○県内の交通事故状況や防止策及び体験型歩行環境シミュレーター「わたりジョーズくん」による、危機管理能力、歩行能力、判断能力の診断



(3) 安全・適正就業推進パトロールの実施

平成 29 年度の安全・適正就業推進委員会から安全且つ適正に就業出来るような事務局づくりが出来ているか、今後委員会で進めるうえでの各拠点の状況把握をし、安全・適正就業を実施するうえで必要な基礎的な部分を理解し委員として行動するという二つの目的でパトロール実施をした。また、パトロールを行う拠点は、平成 29 年から平成 30 年にかけて委員の 14 センターで行うこととした。

実施方法としては、全シ協の手引きを基にし、独自で作成した 2 択（している、していない）のチェック表により進めていった。

主旨としては、センター同士での情報共有の場とし、どのように取り組んでいるか、やっていなければ改善策などを共有するといった気持ちで取り組んでいただき、全体の底上げを目指している。

▽実際のチェック表の一部▽

2. 安全・適正就業対策基本計画の策定等

	している	していない
①安全・適正就業の実現に向けて計画を策定すること P16	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<hr/>		
②組織的な安全・適正就業体制を確立すること P16	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<hr/>		



(4) 熱中症及び熱中症対策に関する実態調査

今夏は例年になく猛暑に見舞われ、熱中症についての報道が連日のように続いた。その為、シルバー会員においても、細心の注意を払い就業していただく必要性があり、熱中症見舞金制度の活用状況など岩手県内全センターを対象とした調査を行った。

(5) その他の活動

各シルバー人材センターで開かれる安全大会や各種イベントに参加し、安全・適正就業に関する情報提供や啓蒙活動に努めている。

岩手県シルバー人材センター連合会様からの報告でした。
詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。

★ 平成 31 年 春季全国火災予防運動について ★

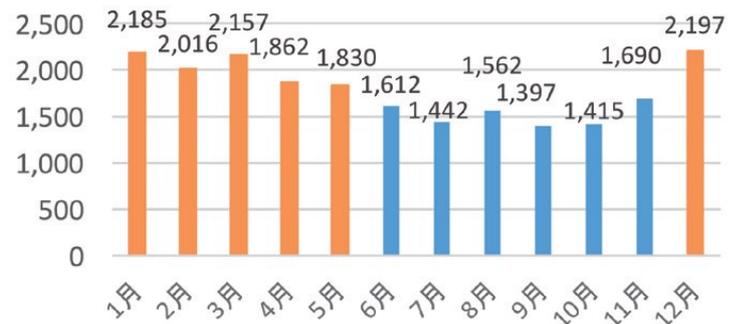
厳しい寒さが続いておりますが、その様な中でも暖かい日もあり、春は確実に近づいてきています。しかし、春先は空気が乾燥し火災が発生しやすい季節です。

消防庁では、「忘れてない？ サイフにスマホに火の確認」を平成 31 年全国統一防火標語とし、平成 31 年 3 月 1 日から 7 日までの 7 日間にわたり、「春季全国火災予防運動」を実施します。それに併せて今月は、火災予防について取り上げてみました。

平成 29 年中に全国で発生した建物火災 21,365 件を月別にみると、冬場の 12 月から 2 月に多く発生していますが、3 月から 5 月も平均と比べて多くなっており、春にも火災が多く発生する傾向にあります。

また、平成 29 年中の住宅火災の件数は総出火件数の約 3 割ですが、住宅火災による死者数は総死者数 1,456 人のうち 985 人と約 7 割を占めています。住宅火災による死者の発生防止対策の要点「住宅防火いのちを守る 7 つのポイント～ 3 つの習慣・ 4 つの対策～」を参考に身の回りの火災予防について確認しましょう。

建物火災の月別発生件数 (平成 29 年中)



『住宅防火 いのちを守る 7 つのポイント』 ～ 3 つの習慣・ 4 つの対策 ～

【3 つの習慣】

- ①寝たばこは、絶対やめる。
- ②ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ③ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

【4 つの対策】

- ①逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- ②寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- ③火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- ④お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



火災事故は、就業中・就業途上の事故同様、「不注意」が原因となっているように思われます。大切な人命、身体、財産を守るため、日頃から注意を怠らず防火に努めていただきたいと思います。

(出所 消防庁ホームページより)

★ なぜ、やってしまう？ 不安全行動 ★

労働災害の発生原因を調べると、約 90%の災害に「不安全行動」が絡んでいます。誰でも事故や労働災害は起こしたくないはず・・・。
そこで、人はなぜ不安全行動をとるのか？その一例を分かりやすくご紹介します。



不安全行動はなぜ起きる？



ヒューマンエラー (人間特性による誤り)

- ・見まちがい・聞きちがい
- ・思い込み・先入観
- ・無意識な動作・くせ
- ・うっかり・ぼんやり

リスクテイキングな行動 (危険と知りながらあえて行なう)

- ・面倒なので
- ・たぶん大丈夫だろう
- ・少しだけだから
- ・皆もやっているから

プレス機械で加工中に・・・

機械が急に動かなくなったので、
「ちょっとだけだから大丈夫だろう」とのぞき込んだら、突然スライドが下降して、頭を挟まれる！
▶ 異常時には、まず「止める」「呼ぶ」「待つ」！

車の運転中に・・・

いつも通っている交通量の少ない交差点で「今日は誰も来ないだろう」とよく確認せずに右折しようとしたら、前方から車が直進してきた衝突！
▶ 通い慣れた道でも必ず確認！

倉庫作業をしていて・・・

「職場のみんながやっているから」と、脚立を背にして下りたら、足を踏み外してねんざしてしまった！
▶ 脚立やはしごの昇降は前向きに3点支持で！

不安全行動をなくすには・・・どうすればいいの？

危険感受性を身につけよう

不安全行動をゼロにすることは難しいといわれています。まずは、機械や道具を安全に使えるものにすることが第一です。一方で日頃から危険に気づく力”危険感受性”を身につけておくことも大切です。

安全衛生教育を受けよう

職場で行なわれる安全衛生教育には、先輩方が経験を通じて得た重要な安全の教訓やポイントがたくさん詰まっています。必要な教育を必ず受け、危険感受性をアップさせましょう。

(出所 中央労働災害防止協会「安全衛生かべしんぶん」より)

平成 30 年度 1 月事故速報

(1) 重篤事故

1 月は、5 件の重篤事故報告がありました。

1 月までの累計で比較してみると、平成 29 年度の 33 件に比して平成 30 年度は 32 件と 1 件減少しています。しかしながら、過去 5 年間で最も事故件数が少なかった平成 28 年度の年間累計 28 件を 4 件も超える状況となっています。

また、就業者・就業途上別にみると、就業者では平成 29 年度の 23 件に比して 22 件と 1 件の減少となっており、また就業途上においては、平成 29 年度の 10 件と比して 10 件と同数となる結果となっています。

1 月報告分までの累計

平成 30 年度 1 月累計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				平成 29 年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	22 (3)	17 (2)	5 (1)	20 (2)	2 (1)	就業中	23	15	8	23	0	
就業途上	10 (2)	8 (1)	2 (1)	8 (1)	2 (1)	就業途上	10	8	2	7	3	
計	32 (5)	25 (3)	7 (2)	28 (3)	4 (2)	計	33	23	10	30	3	

↳ 対前年度比 97.0%

※ () 内は 1 月報告分

1 月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全帽	安全帯	交通手段
28	女 76 歳	就業途上 (死亡)	苺苗の定植作業後、センター事務所からの帰宅途上、橋の袂の町道と県道が交わる信号のない交差点で、県道を自転車で横断中に左から走行してきた軽乗用車にはねられた。病院に搬送されたが死亡した。	—	—	自転車
29	男 86 歳	就業途上 (入院)	清掃作業終了後、バイクで帰宅する途中に、後方から来てバイクを追い越そうとしたトラックと接触し転倒、右半身を打撲した。入院後 6 ヶ月が経過したが現在も入院中である。	—	—	バイク
30	女 75 歳	就業中 (死亡)	朝 9 時頃、発注者に挨拶をして、会員が担当する清掃場所に向かったが、その数分後に業務範囲外の崖から転落し瀕死の状態で行人に発見された。 警察の話では、原因不明だが崖の途中に蜂の巣があり、それを駆除に行くか、または見ようとして転落し頭を強打したのではないかとのこと。	—	—	—
31	男 73 歳	就業中 (入院)	中学校の松の剪定作業中に転落した。梯子を設置し各所を固定してから下の方の剪定を行ない、さらに高い所の枝の剪定をするため安全帯を取りに降りようとしたところ足を滑らし約 2.5m 落下し負傷した。入院後 6 ヶ月が経過したが現在も入院中である。	×	×	—

32	男 72 歳	就業中 (死亡)	発注者宅の裏山の法面の山草刈りを終え、法面上部の雑木を伐採しようと枝にロープを掛けている際、約10m下の地面に転落した。一緒に就業していた会員が、うつぶせに倒れている本人を発見したが、大量出血で意識が無く、病院に救急搬送したが脳挫傷により死亡した。一緒に就業していた会員は転落状況を見ておらず、詳しい原因は把握できていない。	○	×	—
----	--------------	-------------	--	---	---	---

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

1月は、就業中の事故34件、就業途上の事故7件と、合計41件であり、昨年度同月32件と比して9件の増加となっている。また、男女別では、男性は7件の増加となっており、女性は2件の増加であった。

1月までの累計で比較してみると、昨年度の件数に比して、本年度は257件と6件の増加となっている。就業中・就業途上別にみると、就業中は13件の減少となっているのに対して、就業途上は19件の増加となっている。男女別では、男性は14件の減少となっているのに対して、女性は20件の増加となっている。

平成30年度1月分

	仕事の内容	事故数 (件)		うち男性 (件)		うち女性 (件)		平均年齢 (歳)	
		1月	累計	1月	累計	1月	累計	1月	累計
就業中	植木・樹木の剪定等	16(9)	72(87)	16(9)	71(85)	0(0)	1(2)	74	75
	除草作業	5(2)	37(34)	4(2)	29(27)	1(0)	8(7)	77	75
	屋内・屋外清掃作業	3(5)	25(24)	1(1)	11(5)	2(4)	14(19)	76	72
	その他	10(11)	47(49)	7(10)	31(38)	3(1)	16(11)	75	75
	計	34(27)	181(194)	28(22)	142(155)	6(5)	39(39)	75	74
就業途上	徒歩	3(3)	22(17)	0(1)	5(6)	3(2)	17(11)	74	76
	自転車	3(1)	33(22)	2(0)	13(12)	1(1)	20(10)	71	74
	バイク	1(1)	14(17)	0(0)	4(8)	1(1)	10(9)	82	77
	自動車	0(0)	7(1)	0(0)	3(0)	0(0)	4(1)	-	73
	計	7(5)	76(57)	2(1)	25(26)	5(4)	51(31)	74	75
合計		41(32)	257(251)	30(23)	167(181)	11(9)	90(70)	75	75

()は平成29年度同月、累計では同月までの発生件数

- ・「男性会員の6ヶ月以上(180日)の入院報告」が2件あったので、重篤事故(1月報告分)として計上し、その分を「植木・樹木の剪定等」(就業中)から1件、バイク(就業途上)から1件の累計件数からそれぞれ差引いた。

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います。
(平成30年4月24日付 全シ協 事務局長通達により通知済)

編集後記

立春を過ぎましたが、春は名のみ寒さが続いています。北海道では観測史上最も強いレベルの大寒波に襲われ、また各地で大雪にも見舞われました。大雪に見舞われている地域のみならず、日々の除雪作業等お疲れさまです。除雪作業に伴う事故や雪道特有の交通事故も多発していますので、十分ご注意ください。でも1ヶ月予報によれば、2月後半から暖かい日が続くようで、桜が咲くのも早いとか。しかし、今年もインフルエンザは猛威をふるい、いまだ全都道府県で警戒レベルにあります。インフルエンザ予防にも努め、元気にお過ごしいただければと思います。年度末まであと1ヶ月余り、健康に留意され、気を引き締めて、安全就業に努めてください。
(松山)

今月は、「火災の予防」と「不安全行動」について特集しました。「火災の予防」ですが出火原因については、「たばこ」の不適當な場所への放置、「こんろ」の消し忘れなどが多いようです。また、失火の多くは、火気の取り扱いの「不注意」、「不始末」などにより発生しています。春先は特に空気が乾燥することもあり、火災が発生しやすい時季なので、十分注意が必要です。火災は多くのものを一度に失くし、人生が一変する可能性が高い恐ろしいものです。日頃から自分ができる予防を実践し、特に不注意が原因とならないように十分注意していただきたいと思っています。
(笹野)

事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

<頒布物のご案内> 新規会員さんへの研修に活用ください!

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

事故に学ぶ交通安全のポイント「改訂版」

交通事故の死亡者は年々減少傾向にある中、65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。シルバー人材センター会員の皆様においても就業途上において歩行中・自転車乗車中の事故が多く発生しています。このため、事故に注意していただき、安全な就業をしていただくため改訂版を発行しました。是非、会員の皆様に対する研修会・講習会等のテキストとして活用ください。



頒布価格 216 円 A4 判
(税込・送料実費)

【改訂の内容】

- 1 現行のB5版／16頁からA4版／20頁とし、見やすく、分かりやすく、内容の充実を図りました。
- 2 警察庁交通局の「平成27年中の交通事故の発生状況」から、特に、高齢者の事故が多い内容や原因について注意喚起を行う事項を追加しました。
- 3 シルバー人材センターで発生した「就業途上に起きた交通事故」の状況や事故件数及びこれに伴う再発防止のポイントを「イラスト、事例」により掲載しました。
また、ヒヤリ・ハットの事例についても、「イラスト、事例」により掲載しています。
- 4 自転車の危険運転について、道路交通法の改正が行われ、この改正内容等について、「イラスト」等により解説を行い、追加しました。

【お問い合わせ先 全シ協企画情報課 TEL 03-5665-8013】